

RE-BEL

MEISTER 21

SYSTEM

リベルマイスター 21 工法



実績と信頼のマシヨン修繕工法

最大の目的は、資産価値の長期維持

マンションの快適な生活環境を保ち続けるためには、定期的な改修工事やメンテナンスが重要です。

『リベルマイスター21工法』は、圧倒的実績に裏付けられた最高品質の外壁改修システム。

建物を劣化させる様々な要因から長期にわたってマンションを護り続けます。

大規模修繕工事の周期を延ばすことで、トータル修繕費用を抑えることができます。



リベルマイスター21

JIS A 6021 建築用塗膜防水材の基準を満たします。

「高弾性」と「厚膜」のリベルマイスター21が圧倒的な高性能で外壁を保護。クラックの再発を防ぎ、外からの水の浸入を許しません。



リベルセラトップ

「高耐候性」の上塗「リベルセラトップ」が、防水層の「リベルマイスター21」をしっかりとガード。防カビ・防藻機能を備えた超低汚染塗料ですので美観の維持に貢献します。

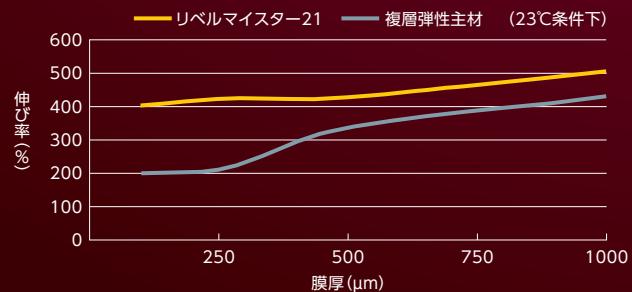


JIS A 6021とは?

正式名称を「建築用塗膜防水材」といいます。主に鉄筋コンクリート造建築物の外壁などの防水工事に用います。主要原料はアクリルゴムで、一般的な外壁材と比べ「耐ひび割れ追従性」に圧倒的な優位性を持ち、ひび割れに起因する外壁表面からの雨水の侵入を長期にわたって抑制します。「リベルマイスター21」はJIS A 6021の基準に合格します。

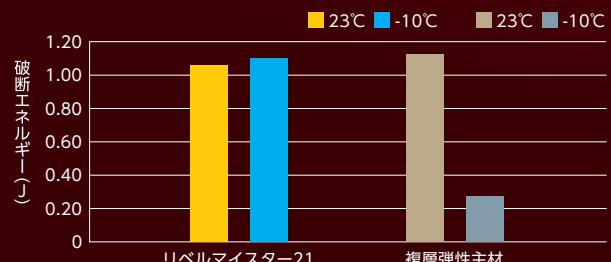
■ 優れた塗膜柔軟性

一般的な弾性塗料と比べ、塗膜厚による変動が少なく、均一な伸び率を示すため、凹凸のある既存膜で、膜厚がつきにくい凹部も凸部と同様の伸びを呈し、クラック追従性に優れます。



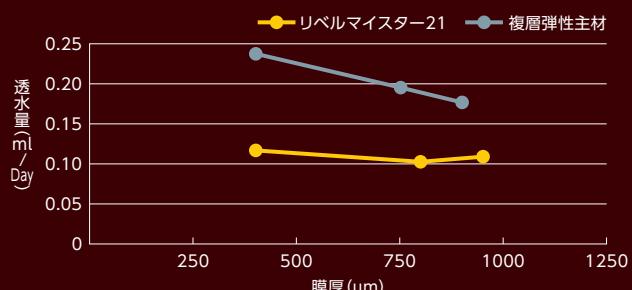
■ 安定した破断エネルギー

一般的な弾性塗料は、低温状態では塗膜が脆くなり破断エネルギーが低下して塗膜にフレが入りやすくなります。が、リベルマイスター21は、温度変化による影響を受けにくく、年間を通して安定塗膜物性を呈します。



■ 優れた外部水遮断性

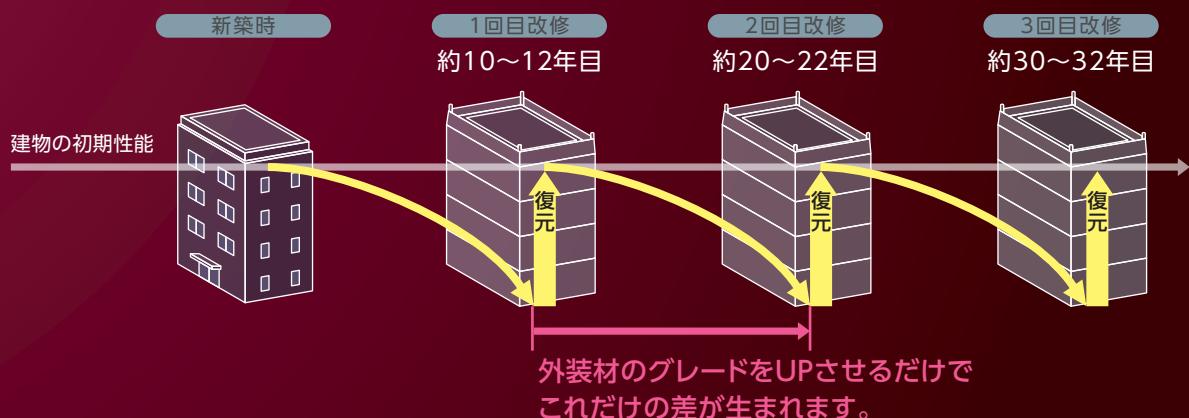
リベルマイスター21は、一般的な弾性塗料と比べ透水量が少なく、また、塗膜厚による透水量の変動幅も少ないなので、均一で安定した外部からの水遮断性を呈し、防水性に優れます。



※透水量が少ないと防水性が高いことを示します。

大規模修繕工事は「復元」から「復元プラスα〔改良〕」へ

■従来工法(微弾性フィラー工法)の場合



■リベルマイスター21工法の場合

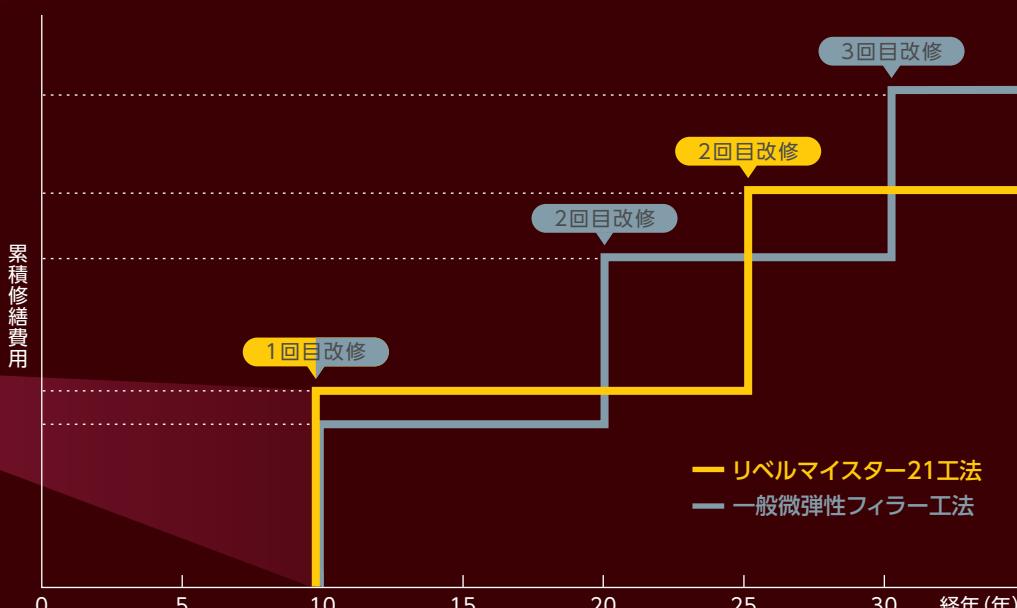


長期マンション外壁改修コスト比較シミュレーション

リベルマイスター21工法は一般微弾性フィラー工法に比べ、外壁塗装工事として2割程度割高(大規模修繕工事全体比では3%程度の割高)となりますですが、メンテナンスサイクルが長くなるため長期修繕コストとしては有利です。

大規模修繕工事 費用割合例
(100戸程度の平均事例)

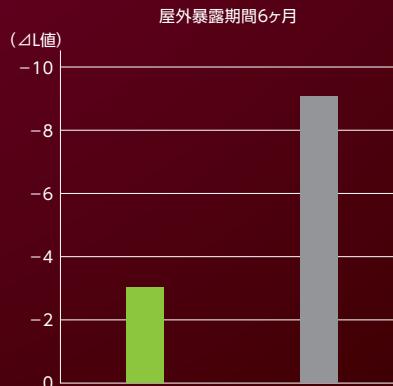
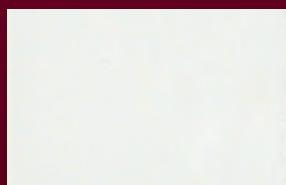
諸経費その他
防水工事
タイル洗浄
天井・鉄部塗装
外壁塗装工事 10~15%
下地シーリング
足場代



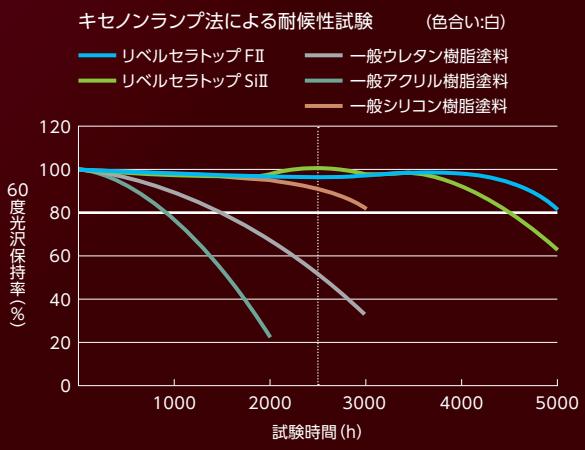
高弾性塗膜(ひび割れ追従・防水性)+高耐候・超低汚染塗膜



■リベルセラトップSiIIの超低汚染性

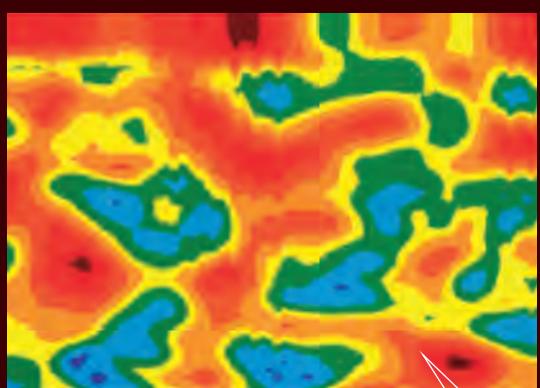


■リベルセラトップSiII/FIIの優れた耐候性

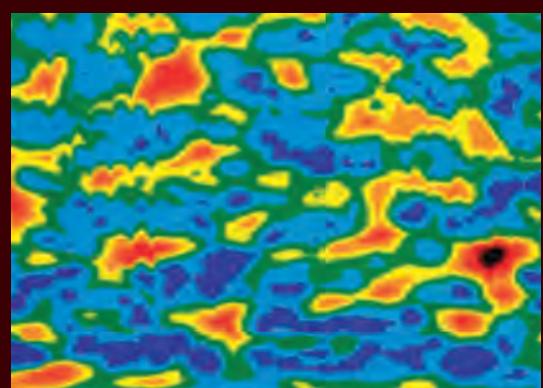


レーザー変位計による膜厚分布解析

リベルマイスター21 ※主材1回塗り



従来6021主材



膜厚の薄い部分が少ない ▶ ボリューム感がある 下地保護性能が高い



KP-111



KP-110



KP-112



KP-223



KP-310



KP-121



KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



KP-80



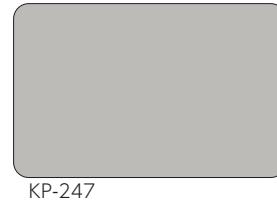
KP-337



KP-336



KP-141



KP-247



KP-330



KP-147



KP-350



KP-75



KP-347



KP-150



KP-352



KP-70



KP-356



KP-357



KP-368 ◎



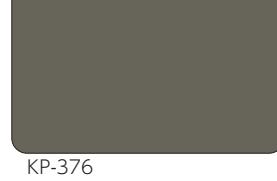
KP-50



KP-367



KP-167



KP-376



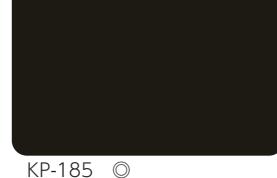
KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この色見本は、紙に塗装していますので
実際の仕上りと多少異なります。

提案色以外でも日本塗料工業会色見本帳
などでの調色も可能です。

◎印は、材料費が割高になります。

見本帳の有効期限は2026年9月です。

標準塗装仕様

標準外壁改修仕様

工 程		塗料名・処置	塗装回数	標準所要量(kg/m ² /回)	塗装間隔(23°C)	塗装方法	希釈率(重量%)
1	素地調整	グラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処理を施す。 劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。					
2	主材(1)	リペルマイスター21	1	0.8~1.5	16時間以上7日以内	多孔質ローラー	上水 2~4
3	上塗(シリコン樹脂系)	リペルセラトップSiII(ベース:硬化剤=14:1)	2	0.12~0.17	4時間以上7日以内	ワールローラー	上水 3~10
3	中塗	リペルセラトップF中塗	1	0.13~0.17	2時間以上7日以内	ワールローラー	上水 3~8
4	上塗(フッソ樹脂系)	リペルセラトップFII(ベース:硬化剤=14:1)	1	0.12~0.17	—	ワールローラー	上水 3~10

*標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態、塗装方法、環境などによって増減することがあります。

JIS A 6021 外壁防水改修仕様(ローラー工法)

工 程		塗料名・処置	塗装回数	標準所要量(kg/m ² /回)	塗装間隔(23°C)	塗装方法	希釈率(重量%)
1	素地調整	グラック、鉄筋の露出、漏水などの部分に適切な処理を施す。 劣化塗膜をケレン工具(皮スキ、ワイヤーブラシ)で除去し、ホコリ、汚れなどを高圧水洗で取り除き乾燥した清浄な面とする。					
2	主材(1)	リペルマイスター21	1	1.2~1.5	16時間以上7日以内	多孔質ローラー	上水 2~4
3	主材(2)	リペルマイスター21	1	1.2~1.5	16時間以上7日以内	多孔質ローラー	上水 2~4
4	上塗(シリコン樹脂系)	リペルセラトップSiII(ベース:硬化剤=14:1)	2	0.12~0.17	4時間以上7日以内	ワールローラー	上水 3~10
4	中塗	リペルセラトップF中塗	1	0.13~0.17	2時間以上7日以内	ワールローラー	上水 3~8
5	上塗(フッソ樹脂系)	リペルセラトップFII(ベース:硬化剤=14:1)	1	0.12~0.17	—	ワールローラー	上水 3~10

*標準所要量は、被塗物の形状や下地の状態、塗装方法、環境などによって増減することがあります。

*JASS 8 L-AW仕様に適用される場合は、下塗にアレス水性ゴムウォールシーラーを塗装してください。

塗膜性能 < JIS A 6021 外壁用塗膜防水材(アクリルゴム系) 試験結果 >

項目		試験成績	規格
引張性能	引張強さ(N/mm ²)	23°C -20°C 60°C	1.8 1.3以上 0.40以上
	破断時の伸び率(%)	23°C	590 300以上
	破断時のつかみ間の伸び率(%)	23°C -20°C 60°C	340 180 230 180以上 70以上 150以上
	引裂強さ(N/mm)	11.4	6.0以上
	加熱伸縮性状	伸縮率(%)	-0.5 -1.0以上 1.0以下
	劣化処理後の引張性能	引張強さ比(%)	106 100 122 80以上 80以上 60以上

項目		試験成績	規格
劣化 処理後の 引張性能	破断時の伸び率(%)	加熱処理 促進暴露処理 アルカリ処理	680 640 570 200以上 200以上
	伸び時の劣化性状	加熱処理 促進暴露処理 オゾン処理	異常なし 異常なし 異常なし いずれの試験片にもひび割れ及び著しい変形があつてはならない。
	付着性能	無処理 温冷繰り返し処理	1.14 0.78 0.70以上 0.50以上
	耐疲労性能		異常なし いずれの試験体にも塗膜の穴あき・裂け・破断があつてはならない。
	たれ 抵抗性能	たれ長さ(mm) しわの発生	0.0 異常なし いずれの試験体も3.0以下 いずれの試験体にもあつてはならない
	固形分(%)	67.2	表示値(67.4)±3.0

*上記数値は、標準のもので若干の変動はあります。

リペルセラトップSiII/FIIの気温と実用上の可使時間(希釈率3~10%時)

条件	気 温	実用上の可使時間	混合24時間後の塗料状態
高温時	30°C以上	混合後3時間以内	ゲル状
常温時	15°C~30°C	混合後5時間以内	ゲル状~増粘
低温時	5°C~15°C	混合後7時間以内	やや増粘~変化無し

*5°C以下では、あらかじめ塗装を遮けてください。

施工上の注意事項

①リペルセラトップSiII/FIIはベースと硬化剤を指定の比率で混合し、電動ミキサーで均一に攪拌してからご使用ください。ベースと硬化剤の混合比率が不適切であったり、指定以外の塗料を混合したり、攪拌が不十分であった場合、本来の機能を得られませんのでこれを遵守してください。

②リペルセラトップSiII/FIIは過希釈の場合、ハジキ・光沢低下などを生じる場合がありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。

③リペルセラトップSiII/FIIは塗装後1~2日は、塗膜表面に若干の粘着性が残存しますので、粉じんなどの付着にご注意ください。尚、塗り重ね性、塗膜性能に支障はありません。

④気温5°C以下、湿度50%以下、降雨、降雪、強風が予想される場合は、あらかじめ塗装を遮けてください。

⑤リペルセラトップSiII/FIIは低汚染機能性乾燥塗膜により発現しますので、塗膜乾燥過程で降雨にあつた場合、汚染の原因となる場合があります。この場合は適切な養生を行なうなどして、直接雨があたらぬよう注意を講じてください。

⑥リペルセラトップSiII/FIIは雨が直接かかるない面や笠木などの水切りが施されていない部位など、建物の形状により低汚染性が十分に発揮できない場合があります。

⑦リペルセラトップSiII/FIIは高温(40°C以上)及び低温(-5°C以下)での保存は避けてください。また硬化剤は低温環境下で長期貯蔵すると白濁することがありますが、容器を湯に浸し、液温を20°C以上にすることにより均一透明に戻ります。

⑧軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窓業サイディング及び発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルタイプである場合は、蓄熱や水の影響、塗装後の環境な

ど、いくつかの条件が重なることで塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、まず下塗りにマルチタイルコンクリートプライマーEPを塗装し、その後、標準仕様での施工を行ってください。また、旧塗膜の種別・状態によりあらかじめシーラーが必要となる場合があります。

⑨シーリング面への塗装は極力避けください。汚染や粘着、ワレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「ツーブラ」または「マルチタイルコンクリートプライマーEP」をペイントとして挟むことで不具合を軽減することができます。

⑩ハケツリで補修塗りを行う際、ローラーと仕上げ肌の違いによる色相差が生じことがあります。

⑪塗装用具などの洗浄で上水で落ちにくい場合は、ラッカーシンナーを用いてください。

⑫リペルセラトップSiII/FIIは第4類第2石油類となりますので危険物貯蔵所に保管してください(ベース、硬化剤混合後は非危険物扱いになります)。

⑬リペルセラトップSiII/FIIは施工時の気温条件により、ベース/硬化剤混合後の可使時間(塗料の状態)に差が生じますが、本來の低汚染機能を発現させるために実用上の可使時間を遵守してください(特に高温時は留意してください)。また、リペルマイスターの可使時間は23°Cで4時間、5~10°Cで8時間です。

⑭塗り替えで下地が脆弱な場合、吸い込みが大きい場合、下地補修部にはシーラーを塗装してください。

⑮汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の掛けは必ずとておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

吸い入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

吸入する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。

皮膚接触に関する危険有害性の表示がある場合、頭巾・ストリップタオル・長袖の作業着・前掛を着用すること。

本來の目的以外に使用しないこと。

指定材料以外のものは混合(多液体の混合・希釈等)しないこと。

缶の取手を持つ振りたり、取手をロープやフックで吊り下げるたりしないこと。

取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。

使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。

本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

目に入った場合：直ちに多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落し、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

北海道 TEL(0133)64-2424 FAX(0133)64-5757
東 北 TEL(022)287-2721 FAX(022)288-7073
北陸東信越 TEL(028)637-8200 FAX(028)637-8223

東 京 TEL(03)5711-8905 FAX(03)5711-8935
中 部 TEL(052)262-0921 FAX(052)262-0981
大 阪 TEL(06)6203-5701 FAX(06)6203-5603

中 国 TEL(082)262-7101 FAX(082)264-3285
四 国 TEL(0877)24-5484 FAX(0877)24-4950
九 州 TEL(092)411-9901 FAX(092)441-3339

*本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承ください。

(23年09月14日POM) カタログNo.623

販売価格 1,500円(税込)